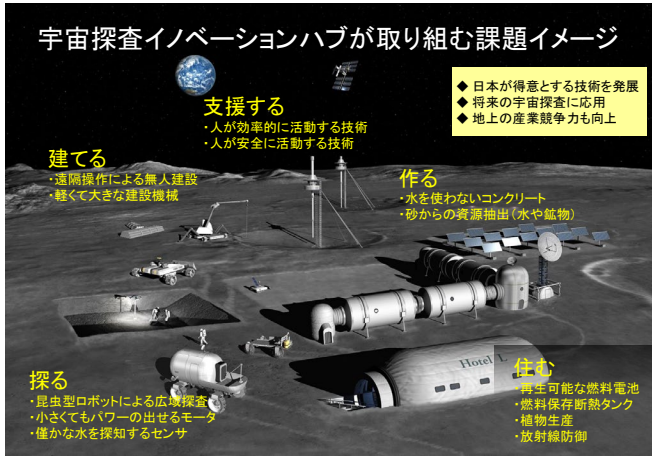


うちゅうたんさ

うちゅうたんさじっけんとう

宇宙探査イノベーションハブと「宇宙探査実験棟」について



宇宙探査イノベーションハブ

月や火星で人類が活動する時代が近づいてきました。今、何を準備しておくべきでしょうか？
きっと、月や火星に降り立った人類は、そこがどんなところか探ったり、その場にあるものを可能な限り使ってモノを作ったり、住居を建てたりし、生活できそうならその天体で長期間暮らしてみることでしょう。

月や火星には、地球ほどではありませんが、重力があります。土壌の中にはひと工夫をすれば様々な活用が期待できる物質がいろいろ含まれています。火星には地球とは成分比率が違いますが、大気もあります。

JAXAでは、JST（科学技術振興機構）の協力のもと、地球上で「探る」「作る」「建てる」「住む」「支援する」といった活動や研究をしている民間企業や大学、研究機関の皆さんから、将来の月や火星探査に必要な技術であり、かつ、地上の技術への転用で我々の生活が大きく変わる（イノベーションにつながる）提案をしてもらい、一緒に共同研究を行っています。

これまで、宇宙開発を扱っていなかった会社や研究者からもたくさんの提案や参加を頂いています。実際に宇宙で使うようにするためには、応用研究が必要ですが、将来、月や火星で活用できる技術の芽が生まれつつあります。

上のイメージ図は、宇宙探査イノベーションハブが取り組む課題の一部を示しています。企業・大学・研究機関と相互の交流、活動の活性化を行い、地上の新しい産業を生み将来の宇宙探査に応用する計画です。



利用の進む宇宙探査実験棟

2017年5月より運用を開始した宇宙探査実験棟は、「宇宙探査イノベーション創出の拠点」として、オープンイノベーション事業やJAXAプロジェクトのための宇宙探査ロボット走行試験をはじめ多くの実験などで利用されています。また、特別公開などで多くの見学者の皆さんに実験場をご覧いただき、宇宙探査の魅力を身近に体感して頂いています。

宇宙探査イノベーションハブ長の久保田 孝（くぼた たかし）です。
2019年、人工知能を搭載した「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」への2度のタッチダウンに成功しました。また国際宇宙探査の枠組みで、日本も月探査や火星探査を本格的に推進する計画です。宇宙特有のものもありますが、月や火星には重力があり、月火星探査という観点では、地上の技術との親和性が高く、宇宙技術と地上技術の融合で新たな展開が期待できます。宇宙探査イノベーションハブでは、日本発の宇宙探査におけるGame Changing（現状を打破し、根本的にものごとを変えること）技術を開発し、宇宙探査の在り方を変えると同時に地上技術に革命を起こすことを進めています。宇宙探査イノベーションハブの活動を通じて、みなさんと一緒に技術研究開発と産業化を行い、宇宙と地上の双方にイノベーションを巻き起こしましょう。



もっと詳しく知りたい人のために
<http://www.ihub-tansa.jaxa.jp>